

E-27 てんべう画の防黴について (オニ報)

てんべう画の支持体の吸湿性について

日本女大家政 ○青島郁子

目的 オニ報に示したように、微生物により損傷を受けたてんべう画の防黴に、一応の成果をみたものの、日本のように、かびの繁殖しやすい風土では、てんべう画の画法を検討すべきであると考へた。その第一段階として、てんべう画の支持体は種々の湿度環境でのような吸湿、吸水が起つてゐるかを調べたので報告する。

方法および結果 シナノキに膠水でとかしたカルシウム塩を刷毛ぬりし、 $45 \times 60$  mm のテストピースを作つた。関係湿度 100%、92.6%、86.4%、64.4% 及び 43.7% の各々のデシケータを数個づつ用意し、テストピースをその中に入れ、その吸湿量を重量測定で求めた。また原料とした、膠、硫酸カルシウム、炭酸カルシウムについても同様の実験を行つた結果、テストピースの吸湿は膠に起因してゐることが明らかとなつた。また、どの湿度環境でも、ほゞりの数日間の吸湿が特にほげしいことがわかつた。

十分に吸水したテストピースを、前述の湿度環境に移すと、3日位で平衡水分にもどることがわかつた。

湿度 100% に 2 週間おいたテストピースに、かびが繁殖、常法により分離したところ、オニ報の A、B、C、D のいずれのてんべう画からも分離された菌株であつた。